

主要事業評価シート(第2次実施計画 / R1・2・3年度)

基本事項	計画コード	事業名	部名	健康福祉部
	17043	予防接種費用助成事業	課名	長寿健康課 健康づくりG
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実	財務	会計 01:一般会計
	基本施策	02:健康づくり・地域医療の充実	科	款 04:衛生費
	施策の方向	02:疾病予防と早期発見・治療の推進	目	項 01:保健衛生費
戦略プロジェクト	01:「健都さぷり」プロジェクト	目	目 01:保健衛生総務費	
事業予定期間	H 24 ~ R - 年度	主な根拠法令要綱等	予防接種費用助成金交付要綱(インフルエンザ、水痘・おたふくかぜ、肺炎球菌等)	

目的・概要	対象	市民(予防接種対象者)
	目的	予防接種の接種勧奨を行い、予防接種の普及を推進することで、感染症の地域での流行や重症化を予防し、市民の健康保持・増進を図るとともに、保護者の経済的負担の軽減を図る。
概要	次のワクチンについて、予防接種費用の一部を助成する。 対象ワクチン インフルエンザ、水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、MR(定期接種もれ)、ロタ(令和2年度まで)、DPT	

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	
事業の計画・実績	年度計画	予防接種費用の一部助成 ・インフルエンザ、水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、MR、ロタ 市民への周知啓発 ・広報、HP、CATV、赤ちゃん訪問、幼児健康診査問診時 等での啓発	予防接種費用の一部助成 ・インフルエンザ、水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、MR、ロタ、DPT 市民への周知啓発 ・広報、HP、CATV、赤ちゃん訪問、幼児健康診査問診時 等での啓発	予防接種費用の一部助成 ・インフルエンザ、水痘、おたふくかぜ、成人用肺炎球菌、MR、DPT 市民への周知啓発 ・広報、HP、CATV、赤ちゃん訪問、幼児健康診査問診時 等での啓発	
	年度実績	○予防接種費用の一部助成 インフルエンザ1,891人、おたふくかぜ421人、成人用肺炎球菌190人、MR(定期接種もれ)2人、ロタ延909人、水痘14人 ○市民への周知啓発 ・広報4回、HP2回、赤ちゃん訪問、幼児健康診査問診、母子手帳交付時、育児相談での啓発			
事業費	計画額	事業費	7,300千円	7,700千円	7,100千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
事業費	予算額	事業費	7,300千円	0千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
事業費	決算額	事業費	6,627千円	0千円	0千円
		国庫支出金			
		県支出金			
		地方債			
		その他			
人件費	総人件費	一般職員	1,570千円	0千円	0千円
		所要人員	0.20		
		会計年度任用職員等	0千円	0千円	0千円
		総コスト(+)	8,197千円	0千円	0千円
		受益者負担率	0.0%	0.0%	0.0%

			令和元年度	令和2年度	令和3年度
指標	名称	周知啓発の実施回数	計画値 4	4	4
		活動	実績値 6		
			単位 回	回	回
	名称	予防接種費用助成人数	計画値 1,400	1,400	1,400
		活動	実績値 1,891		
			単位 人	人	人
	名称	麻疹患者発生数	計画値 0	0	0
		成果	実績値 0		
			単位 人	人	人

事業の改善	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】 MR予防接種については、定期予防対象時期に接種が確実にできるように、未接種者への個人通知及び園と連携して個別の状況を把握したうえで接種勧奨を行い、接種につなげていく。
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】 MR予防接種については、感染症の流行や重症化防止を目指し、より一層の接種率の向上のため、未接種者への接種勧奨ハガキ送付の他、市内保育園や幼稚園の未接種者に対しては各園を通じた接種勧奨連絡を行った。さらに教育総務課と連携を図り、小学就学時健診案内にチラシを同封するなど、各関係機関との連携を密にし接種勧奨を行った。

		評価	(判定)
事業の評価	活動	【計画どおりに実施できたか】 平成30年度麻疹の集団発生があったことから、広報やホームページに、定期予防接種を対象時期に接種することが重要であると情報提供を行った。またMR2期定期予防接種については、市からの接種勧奨に加え、保育園や幼稚園から未接種者に接種についてのアンケートを渡し勧奨勧奨を行った。さらに、MR予防接種については、対象期間中に接種ができなかった方については、費用助成を行い接種を受けやすい体制とした。	A 計画どおり実施できた
	成果	【成果は順調に上がったか】 インフルエンザの予防接種は計画値を上回る接種者であり、そのうち就学前児童の接種率は56.4%であった。また、おたふくかぜ91.9%、ロタウイルス91.7%と高い接種率を維持しており、予防接種普及の推進が図れた。市内小児科医に確認したところ、乳幼児の重症化等による入院はなく、感染症の流行や重症化予防につながり、保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。	A 十分な成果を得た

今後の対応方針	課題	【課題は何か】 定期接種にて4種混合ワクチン接種が行われているが、就学前にはそのワクチンによる免疫効果が低下し、百日せきにおいては兄弟間の感染が多く鈴鹿保健所管内においても患者数は増加しており、特に、新生児が罹患すると重症化しやすく命にかかわり危険であることから、学童期以降も免疫を維持し感染防止が図れるようにする必要がある。	今後の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他 【その他の場合、その内容を記載】
	対応	【課題に対し、どのように対応するか】 学童期以降の百日せき免疫を維持するために、小学校就学前の1年間の期間に「百日せき破傷風ジフテリア混合ワクチン(DPT)」の追加接種することを勧めるため、予防接種費用の助成を開始する。	
	効果	【対応することで、どのような効果が期待できるか】 予防接種についての接種勧奨を行い、予防接種を推進することで、百日せきの地域や兄弟間での流行や重症化を予防できる。	
	対応時期	令和2年度	

【1次評価者】	健康福祉部 長寿健康課 健康づくりグループリーダー 駒谷 みどり
【最終評価者】	健康福祉部 長寿健康課長 豊田 昌子

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動	A	A	A		
	成果	B	A	A		

令和元年度予算額(事業費)の内訳

予算額(事業費)		7,300 千円
内訳	平成30年度からの繰越額	千円
	令和元年度の最終予算額	7,300 千円
	令和2年度への繰越額	千円